

週日の説教

金 大烈 神父 2010年3月18日(木)

《全てが正しいでしょうか》

おはようございます

今日は、結構長い福音(ヨハネ 5・31~47)でしたが6年になって(日本に来て)私も上手く読めるようになりました。(皆大笑い)

さあ、ある幼稚園の英語の先生が子供達に聞きました。「皆さん、空気は英語で何と言いますか。」
「エアーです。エアーです。」と大きな声で答えます。それでは次「お水は英語で何と言いますか。」と質問しました。当然「ウォーター」と答えてくれると思ったのですが、「ウォーター」と答えず、子供達の答えは「セルフです。」と言うわけ。先生は驚いて「どういうこと?」と不思議に思いました。その訳を聞いて見ると、食堂に入って水を頼むと食堂のおばさんが指を示し、その所を見たら「お水はセルフ」と書いてあったというはなしです。だから幼稚園の子供達は「ウォーター」ではなく「セルフです。」と答えたことです。かわいい話ですよ。

もしかしたら私達は、このような生き方をしているかも知れません。目に見えたものが全てだと、本当だと私は信じています。しかし、この世の中の流れを考えると、昨日真実だったものが、今日になったら偽りになってしまう。今日偽りだと思ったものが、明日になると真実になってしまう。そう思いながらも私達はその反対のことを責めようとする癖を持ちながら生きています。

皆様が考えている全てのこと、また、私が考えている全てのことが、無条件に正しいでしょうか。自分の目で、自分の耳で、自分の鼻で、自分の口で、感じられたものが本当に本物でしょうか。それに対して、私達キリスト教信者なら開けておかなければなりません。いつも可能性に、例えば、殺人を犯したと言われる人がテレビで、ニュースでひどく映された時に、私達はもしかしてその人が、「本当の犯人でなかったらどうする」それくらいの心は持つべきだと思います。いろいろな人々の言論プレーと言いますが、言論のやり方によって、直ぐに人を罪びとにしてしまいやすい世界です。ある人が全く根拠のない内容を、ただ口の上手さによって書いたものがあるとします。それを読み、聞いた者はどうしてもそれに傾いてしまいます。「今まで信じてきたのにあのやつ」と、そのような心から私達はなかなか解放され難いと思います。

さあ、今日、イエス様にいつも批判されているそのユダヤ人たち、イエス様の故郷人ですよ。故郷の人々です。自分の民族です。その人々をイエス様は激しくいつも批判なさいました。彼らの特徴は何でしょうか。どの民族よりも宗教的でした。そして、先生と言われる人々に教えてもらったものは、「ちゃんと守らなければならない」と、強い心を持っていた民族でした。しかし、イエス様にいつもやられました。イエス様にやられる前に、ユダヤ人たちは逆に、イエス様を受け入れなかったのです。そして、彼らは長い間、長い年月、何千年とメシアを待ちました。そのメシアがいつ来られるの

かと待ちました。しかし、メシアといわれるイエスという人物が現れた時に拒みました。なぜ拒んだのでしょうか。自分たちが考えてきたメシアのイメージと違ったからです。全然違う。

だからこの人は偽メシアだ。人々を戸惑わせる、洗脳する悪い者だ。この人に引っ張られたら、政治的な宗教的な全てのものが崩れてしまう。そのように思ったから、イエス様を殺さなければならない状態でした。それは独善的なものの見方です。独善、この言葉に含まれている基の意味は、自分の目に見える物が本物だという考え方です。自分の見たことによって、自分の基準によって、自分の量りによって、全てのことを判断するそのような人を独善的な者と言います。やはりイエス様は、ユダヤ人全体に流れている独善的なその雰囲気、考え方によって、殺されました。ユダヤ人と言っていますが、ある意味で全ての人間のひとつの弱さかも知れません。

私達はよく指をさすのですが、その指さしに、前提としていつも責任を負う心が必要ではないかと思います。私達は、神様を崇めながら、イエス様を賛美しながらも、知らないうちに間違っている道を歩んでいるかも知れません。

ですから祈りが必要です。「道から外れないように導いて下さい。」という祈りが必要ではないかと黙想してみました。

ありがとうございました。